

マルク、武満との思い出

ギタリスト 荘村清志

久しぶりの浜松での演奏会、とても楽しく終えることが出来ました。

今回はベルギーのフルーティスト、マルク・グローウェルズさんをゲストにお迎えして、スペインと南米の音楽をテーマにしました。マルクとは15年くらい前から一緒に演奏していますが、表現力にあふれた演奏家でリハーサルで決めた約束事も、本番では違うように演奏したりして舞台上で生まれる発想をととても大切にします。その点、私は若い頃あらかじめ決めた発想を、舞台上で確実に再現出来る事を大切にしていたので、とても新鮮に感じました。舞台上で何をするか分からない彼の演奏はとても緊張感にあふれ、それは楽しいものです。私自身50過ぎから徐々に変化し始めていた頃でしたので、それはとても勉強になり少しずつ確信を持って自分の感情を外に出すようになりました。今回は久しぶりに彼と演奏しましたが、前にも増して感情表現が色濃くなっていてとても楽しく演奏することが出来ました。浜松音楽友の会の皆様には改めてお礼申し上げます。

話は変わりますが、最近、今年が没後20年ということで武満さんのギターソロ4曲と12の歌だけの演奏会を行いました。武満さんには1974年の私のリサイタルのため、その1年前の73年に誰の紹介もなしに会いに行き、作曲を依頼しました。勿論すぐ書いて下さるとは仰らず、5回くらいギターを持って伺っているうちに、「ギターのための作品が書けると思います。」と言われ、思わず万歳してしまいました。

丁度その頃プロ野球が9月で佳境に入っていました、「ところで君はどこのファンですか?」と聞かれ、素直に「巨人です。」と答えたら、「あー僕、もう書くの止

めた。」と言われ、あわてて「武満さんはどちらですか?」とお聞きしたら「僕は巨人嫌いなんだよ、阪神です。」とのご返事に、「今日から阪神ファンになりますから、是非ギターのために曲を書いて下さい。」と言いました。「君が阪神ファンになるのだったら、書いてもいいよ。」という事で次の年の5

月に武満さんの初めてのギター独奏曲「フォリオス」が生まれました。曲の最後に、バッハのコラールの一節が現れて終わるといふ感動的な曲を作って頂きました。勿論、楽譜を頂いたと同時に巨人ファンに戻りましたが。そしてそのリサイタルのアンコール曲として武満さんがアレンジして下さい、「オーバーザレインボー」を演奏しました。「ギターのための12の歌」はそこから始まり、武満さんの好きな世界の12曲の歌をレコーディングしました。ロンドンデリーの歌、イエスタデイ、サマータイム、ハイ・ジュード等、武満さんの美しいハーモニーによって編曲された素晴らしい作品です。

武満さんが亡くられた後、奥さまから伺ったお話では「荘村があまりにもクラシックの中に閉じ籠って真面目な演奏をしていたので、もっと美しいメロディーに酔ってギターを弾いて欲しい。」という発想でアレンジして下さいたとのことでした。でもその頃はなかなかメロディーを深く感じる事が出来ませんでした。最近になって12の歌を弾くのではなくて「歌う」ことが出来るようになりました。オリジナルの4曲もやっと武満さんの思いを深く感じながら演奏することが出来るようになりました。これからも武満さんの曲は弾き続けていきたいと思っています。



写真: sayaka



「夏のコンサート」6月2日

2.6.2016.

浜松公演によせて

チェロ奏者 横坂 源

この度はチェロコンサートを聴きにきていただき、どうもありがとうございました。足をお運び下さった多くのお客様、そして、コンサートのご準備、運営を支えて下さった浜松音楽友の会の皆様に感謝致します。

ある新しい対象を知覚した時に、「何かおもしろいかも」と思うことが容易ではない中、ベンデレツキを演奏した後のあのような雰囲気、拍手よりも大きな唸り声のような音がステージ上に届き、まるで曲の初演に立ち会ったような気持ちになったことが、私の中で特に強く印象に残っています。

アクトの中ホールも少しずつ顔なじみになってきました。弦楽器の音に心地の良い伸びを与えてくれる数少ないホールだといつも感激しています。倍音を多く産むホールなので、室内楽もメロディーや伴奏と別れてしまうのではなく、お互いに溶け合い音楽を積み重ねることが可能ですし、内装もエレガントで大好きなホールです。音楽は心と心をダイレクトに繋ぐ世界共通の言語と言われていますが、もう少し紐を解いていくと、それぞれの作曲家の生まれ育った国の言語を用いて、その思い



「春の演奏会」4月15日

を綴っている部分が多く見受けられるように感じます。またその国の気候や気風からも影響を受けていて例えば、イタ

リアでは長調が多く、また短調の時フランスでは詩的で色のカラーやグラデーションが多く存在し、ドイツでは内面から湧き上がる力強さと言語からくる強い文体、日本では短調が多く、ヨーロッパには存在しない「間」という独特の空間を描いたり様々です。

ドイツの授業で日本の「間」を勉強した時には本当に驚きでした！また作曲家の生活する国が変わることで同じ「田園風景」や「教会」でも思い起こしているものは大きく異なってきます。時空は残念ながらまだ越えられませんが、彼らの生まれ育った地へ実際に足を運び、作曲家達が思い描いていたであろう風景や町の雰囲気、想いを音の中に感じ、皆様のお心に届けることができたらこんなに幸せな事はないと日々思いながらチェロと共に生活しています。

新潟で生まれ、東京、ドイツと移動民族のように居住地を変化させながら生活していますが、ここ浜松では強い愛着からあっという間に3年が過ぎ去ろうとしています。

ジュニアオーケストラの皆様とも温かな関係を築かせていただいている、子ども達の真っ直ぐな瞳と気、そして思考の柔軟性を正面から感じながら皆で切磋琢磨しています。

また皆様と一緒に音楽を分かちあえることを、心から楽しみにしています。



入会 20 年目に想うこと

友の会会員 伊藤 雅章

「音楽友の会」の魅力は、中心となる女性たちのボランティアによる「心づかい」が生かされた、温かみのある演奏会ということが出来ます。

演奏家自身による曲目解説、楽器紹介や出演者の素顔のみえるインタビュー、応募による花束贈呈などなど、プログラムに華を添える趣向は、まさに演奏家と聴衆が一つになって音楽を楽しもうという、お気持ちが表れていて、私自身も喜びを感じています。

2004年、50人程の個人的集まりに、発足当時より代表としてリーダーシップをとってこられた、声楽家の佐藤安子さんをゲストにお招きし「友の会20周年の歩み」をテーマとしたお話をうかがいました。

「決して、順風満帆といえないけれど、音楽への深い愛

情と情熱とともに、音楽を愛する者が、自らの力と手によって、最高の感動を呼び起こす質の高い演奏会を目指しています。」と、背すじをピンと伸ばし、張りのあるメゾソプラノで話されました。

又、発足当時の会員募集では、多くの人とのつながりを頼りに、夢中でお誘いした、と当時の様子を話してくれました。

演奏会場を見渡せば、親と子、孫の三世代にわたる会員も見つけられ本当に頼もしく思います。

自分の住む街のごく身近な音楽会で、お気に入りの音楽や演奏家を見つけだすことができるということは「音楽に親しむ」上手な極意といえるのかも知れませんね。

浜松音楽友の会の皆さまのご努力で33年もの長きにわたって素晴らしいアーティストの演奏を低価格で聴かせて頂き、大変嬉しく思っています。「全国的にも珍しい幸せな環境ですね」と静岡の友人たちにも羨ましがられています。スタッフの皆さま方のご苦勞を考えると本当に有り難いと思います。

私どもの旧天竜市でも、'89年「文化の香る町にして欲しい」と市からの依頼があり、佐藤亮さんを中心に、会員を募り「コンサートホール天竜」を立ち上げ、クラシック音楽の聴ける街にしようと活動を始めました。'91年から私もスタッフの一員に加えて頂きました。最初は、雨漏りのする天竜市民会館とステージに置きっぱなしのピアノしかないことに悩まされ、ハーブや

ギターなど楽器を持参して下さる方しかお招きできず大変苦勞いたしました。それでもハーブを10台も並べた「ハーブフェスティバル」など様々な演奏会や「市民音楽祭」も開催して参りました。お母さんに手を引かれてハーブ演奏会に来てくれた、当時幼稚園生だったお嬢さんを私たちの弦楽合奏団にハーブソリストとしてお迎えすることもできました。スタッフ皆で天竜の地で開いて来た小さなコンサート活動ですが、この時は本当に報われた想いが致しました。

浜松音楽友の会が、これからも浜松の地域に貢献し続け、私たちクラシックファンを楽しませて頂けたらと願っています。友の会を励みに私たちも小さな活動を頑張っ

これからのコンサート予定

秋

小管 優 ピアノリサイタル 10月10日(月・祝日) 6:45PM(開演)

世界的な指揮者やオーケストラとの共演を数多く果たし、国際的な評価を得ているピアニスト。2006年のザルツブルグ音楽祭では、日本人で2人目となるリサイタルを開催。またベートーヴェン「ピアノソナタ全曲演奏会シリーズ」(全8回)も大好評を博しており、今回はその「ピアノソナタ全集」完結記念プログラムとなっています。友の会待望の再登場。今最も注目されるピアニストの演奏をご堪能ください。



写真：Marco Borggveve

ベートーヴェン「ピアノソナタ全集」完結記念プログラム

1部

ソナタ 第1番 ヘ短調 Op.2-1
ソナタ 第24番 嬰ヘ長調 Op.78「テレゼ」
ソナタ 第17番 ニ短調 Op.31-2「テンペスト」

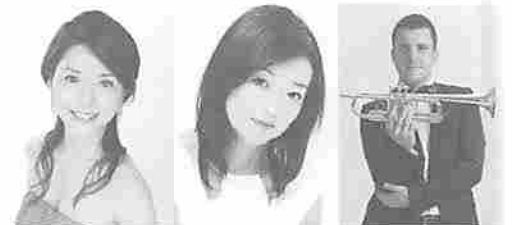
2部

ソナタ 第21番 ハ長調 Op.53「ワルトシュタイン」
ソナタ 第32番 ハ短調 Op.111

冬

トリオ・ティエポロ 演奏会 12月9日(金) 6:45PM(開演)

世界で活躍するオルガニスト井上圭子、日本を代表するソプラノ歌手として活躍中の砂川涼子、そして日本フィル首席トランペット奏者オッタヴィアーノ・クリストーフォリの、輝きを放つ3人の名手によるトリオ。オルガン独奏から、オペラアリア、クリスマスソングまで、この季節ならではのプログラムをお届けします。



プログラム

1部

ダカン／グランジュとデュオのノエル
ロイド・ウェバー／レクイエムより ピエ・イエズ
スカララッティ／すみれ
タルティーニ／トランペット協奏曲
グノー(バッハ)／アヴェ・マリア
スカララッティ／独奏トランペットを伴う7つのアリアより
第1番、第4番、第6番

2部

ヘンデル／私を泣かせて
バッハ／トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調
プッチーニ／「ラ・ボエーム」より
“冷たい手を”
“私の名はミミ”
“優雅な乙女よ”

2017年 四季コンサート 予定

各回共 於：アクトシティ中ホール

春 須川展也 サクソフォンリサイタル 4月14日(金)

日本が世界に誇るサクソフォンのトップ奏者、須川展也。浜松での久々のリサイタルです。須川の歩みは、クラシック・サクソフォンの歴史そのもの。デビュー以来長年にわたり、新たなレパートリーを目指し、気鋭の作曲家にオリジナル曲を委嘱、多くの作品が今や国際的なスタンダード曲として知られるようになってきました。今回はジャズ界の巨匠チック・コリアによる最新作も披露される予定です。ピアノ共演は小柳美奈子。

夏 シューマン・カルテット(弦楽四重奏) 6月15日(木)

ケルン音大で重鎮アルバン・ベルクに師事した正統派。ヨーロッパやアメリカで大絶賛の弦楽四重奏団です。最難関のひとつとして知られるボルドー国際弦楽四重奏コンクールで2013年に優勝して以来、ウィーン楽友協会、ウィグモアホール、コンセルトヘボウ等、名だたるホールに出演を重ねてきました。2016年にはニューヨークのリンカーンセンター室内楽協会の常任にも大抜擢され、今世界から注目されている四重奏団です。

秋 イリヤ・ラシュコフスキー ピアノリサイタル 10月13日(金)

ロン＝ティボー2位、エリザベート4位などの入賞を経て、2012年の浜松国際ピアノコンクールでは圧倒的な評価を得て優勝。ロマンティックで繊細、そしてダイナミックで野性的な表情、卓越した技巧を聴衆にアピールし、絶大な支持を得ています。2015年には、スクリャービンのピアノソナタ全10曲を1日で弾き切るという離れ業を見事に達成、そのライブ録音を中心にしたCDも注目を集めています。

ロシアの若き実力派が新しい境地を拓く待望のリサイタル、どうぞお楽しみください。

冬 中鉢 聡 テノールリサイタル 12月3日(日)

日本を代表する国際的テノール歌手、中鉢聡の登場です。藤原歌劇団等のオペラ公演で数多くの主役を務めるかわら、各地で多くのコンサートも開催し、力強い美声と軽妙なトークで好評を博しています。今回のコンサートでは、プッチーニやヴェルディの傑作オペラアリアに加え、カンツォーネや歌曲の名曲などをお届けします。情感あふれる、聴きどころ見どころ満載の素敵なステージをどうぞご期待ください。

★会員の皆様へのお願い★

会員日より 皆様の原稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内で。テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま登録されます。

退会希望の方は、ハガキに住所、氏名、電話、会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛に退会の旨をご連絡ください。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号(旧会員の)をご記入の上、事務局までお送りください。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、岡本 ☎053(466)5417 までお申込みください。

開演時(開演30分前)から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

個人情報取り扱いについて

当会は個人情報の取り扱いについて「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令及びその他の規範、ガイドラインを遵守し、個人情報について適切な管理・取り扱いと保護に努めます。